

「キリストを信じてよむこと」

(ローマ3・21～31)

一、神の御思いを知る

シリーズ説教「ローマ人への手紙に聴く」では、罪の問題、すなわち人間が神の前にあるべき姿になっていないために発生している様々な問題について、聴いてまいりました。「罪、罪、罪」と、しばらく罪のことが続きました。そこで思うのは、木を見て森を見ずとなってはならないことです。使徒パウロが伝えたかったのは、キリストによってもたらされた福音、すなわち善き知らせです。福音を知るために、私共がどれだけ神の前にあるべき姿になっていないのか、すなわち罪の状態にあるのかを知らなければなりません。

福音を捉えるために、創世記を思い起こしていただきたいと思えます。神は、大地のちりて人を形造り、その鼻に命の息を吹き込まれ、人は生きるものとなりました。その後神は、人をどこに置かれ、何を任されたでしょうか。「どこ」については、エデンに設けられた園です。「何を任されたのか」については、エデンを耕させ、園を守らせたことです。このように創世記には、神が為されたこと、そして人(アダム)の様子が書かれています。創世記に書かれています

ことは神の啓示、すなわち覆われていた覆いが取り除かれたものです。単なる天地創造の物語ではありません。そのように受け止めるなり、創世記から、人とは何なのか、神と人との関係は本来どういうものであったのか、神が人に望んでおられることは何なのか、罪とは何なのかについて、知ることができるわけです。神は私たちに善い御計画を備えておられます。ですが、人に対して御自身のお考えを強要されませんでした。すると人(アダム)は、神に聞いて生きるのではなく、自律して、すなわち自分の判断で生きる道を選びました。それを、キリスト教会では「原罪」と呼んでいます。こうして罪の道を選んだ人(アダム)と彼の子孫は、どうなつたでしょうか。すべての人が罪の下に置かれるようになりました。遺伝ではありません。アダムという人類の代表が、自律して歩む道を、すなわち罪の道を選んだので、私共も皆、生まれたままの状態においては、神に背を向ける歩みをしています。そして、創世記は語っています。〈神である主は、人をエデンの園から追い出された〉と。

二、神の義は上から来る

創世記により、神の御思いを知るなら、神が私共に何を望んでおられるのかが分かります。それは、罪の問題が解決されて、本来のあるべき姿に戻るこ

とです。それを押さえた上で、21節をご覧ください。〈しかし今や、律法とは関わりなく、律法と預言者たちの書によって証しされて、神の義が示されました。〉とあります。〈神の義〉とは、「神の基準における義しさ」の意味です。〈しかし今や、律法とは関わりなく〉とありましたが、これは「律法による義とは関わりなく」の意味かと思われま

す。〈律法による義〉は、当時のユダヤ人たちが一所懸命に求めていたことでしたが、人が守って行おうとする義など、聖なる神の前には何の功績にもなりません。神のレベルに達する義を、人は打ち立てることができません。神が示された義は、神御自身の方法で現されました。しかも、その義は、〈律法と預言者たちの書によって証しされ(た)、神の義〉、すなわち旧約聖書が指し示していた神の義でした。22節です。〈3・

22〉 神が示された義は、人が自分で獲得する義ではなく、〈イエス・キリストを信じる〉ことによって、信じるすべての人に与えられる神の義でした。これは、律法の専門家でもあったパウロ先生も思いつかないものでした。パウロ先生は、どうやって知ったのでしょうか。復活の主イエス・キリストに出会うことにより、神の啓示によって、すなわち覆われていたものの覆いが取り除かれることによって知りました。今確認したことは、23節、24節で、要約

のようなかたちで語られています。〈3・23～24〉
こうして、キリストを信じて神から義と認められたとき、言い換えるなら、神からの義を上からいただいたとき、神は私たちを、罪を犯す前のアダムのように取り扱ってくださいます。

三、神の義の現れ

最後に、神の義はキリストにおいて現されたことを確認したいと思えます。神は、被造物である私たちを祝福したいと思っておられます。その論拠は、先ほど確認しましたように、創世記です。ですが、神は聖い御方であって、罪の道を歩み始めたアダムを園から追放せざるを得ませんでした。ということ

は、神は、罪の状態にある人間をそのままの姿では祝福できない、聖い御方であると知ります。神が人を祝福するためには、罪の問題が解決されなければなりません。どうやって解決されたのでしょうか。人として遣わされた御子イエス・キリストに、人類が犯した、あるいは犯すであろうすべての罪の身代わりとして、償いをさせました。主イエス・キリストは、人となられた神であつたので、私たちの罪のために償いをすることができました。神のこの行為により、神の義が完全に現れました。それを語っているのが、25節、26節です。〈3・25～26〉